

光

明

妙智寺 寺報 5月 212号

仏事あれこれ

Q、熨斗の書き方で「御霊前」と「御仏前」に違いがあるのですか？

A、七七日忌（四十九日忌）を境にして、それ以前を「御霊前」、それ以降は「御仏前」と使い分けるのが一般的。七七日忌のときに「仏さまに成る」という考え方から生まれた習慣。地域や宗派によって違いもあります。

「御香典」「御香奠」「御香料」「御香資」など、香という字がつく表書きは、宗派の違いや、七七日忌の前後をあまり問いません。

これは「お香をお供えする代わり」という意味になるからです。仏さまになる前であっても、仏さまになってからでも、お焼香をしたり、お線香を立てることは変わらないため。

また、熨斗袋の表書きを書く際には、薄墨を用いる方も。涙で墨が薄まってしまった（諸説あります）という意味で、悼む心を表す。

なお、香典袋には、新札は入れないのがマナーとされている。あらかじめ不幸のあることを考えて仕度していた、という意味になるとされるから。新札しか持ち合わせがないときは、軽く折り目をつけてから入れるのがよいとされます。

ちなみに、熨斗の色については、以下の通り。

弔事・・・黒白、黒銀、	→ 葬儀・法事・法要、全てに使用
双銀	→ 上に同じで且つ、多額・布施・戒名料の場合
黄白	→ 関西北陸のみで「一周忌」以降の場合
慶事・・・紅白、全赤、金銀	

ご寺院への熨斗はというと、色は上記の通りで、書き方は「御布施」が全てに可能。ちなみに他は「志」「御志」「御志納」や「上」などもある。

※あくまで参考であって、要は「形骸化」しないことであろう。

弔問であれば、故人を弔うことが大事だし、香典は本当にお香を供えるのが本来。ご寺院へも、半紙に包むことがあっても良いし、そもそも本堂の縁を拭いていかれるのも、立派な「布施」である。

「コロナ禍」に思うこと

令和2年が明けてまもなく、どこやらの国から新型のウイルスという脅威が入国し、誰もが予想だにできなかった程の国難を招いている。

いろいろなことが自粛され、あらゆる職種の業務が減少、ともなって経済が悪化。むろん「いのち」に関わるために「心」の健康まで脅かされた。国や自治体は、3つの「密」を回避するようにと強く要請。生真面目な国民は極力それに従っている。

その一方で3つの「不」が現れた。「不安・不満・不信」である。これは一重に、コロナ禍から現れたものではあるが、あまりにも「思わされている」感が強すぎなのと、そもそも自覚がないように愚見する。この悪状況につけこんで、詐欺をはたらく悪人や、誤報をまわす輩は話しの他。自分さえ良ければとトイレトペーパーや食品の買いだめに精を出したり、ある薬局では、「マスクをどこに隠している！」と怒りながら勝手に倉庫に入る老男。感染を嫌ってレジのやり取りに店員を腫れ物に触るように対応する老女。誹謗中傷や噂の伝達・・・根本的に「感染したくない」のであって「感染させたくない」という他者を思う心が欠落している。

あげたらキリがないが、とにかく3つの「不」を知らず知らずのうちに口にし、行動にしている。

お題にある「禍（か・わざわい）」は「災（さい・わざわい）」とは違う。

禍・・・人為的ミスなどにより発生

災・・・防ぎようのない元凶によりもたらされた

また『白川文学』によると「禍」は、残骨（呪霊）によってもたらされるもので、「示（神）へん」が付くことで【わざわいを祓う儀礼】のことだそうだ。やはり3つの「不」に溺れているわけにはいかなそうである。

ショック療法の如くなることをお詫びを願い、古いことわざを2つ紹介する。

- 「天のまさに大任を降さんとするや、必ずまずその身志を苦しむ」
(天が人に大きな任務を授けようとするときは、まずその身心を苦しめ、それに堪えた人だけに栄誉を与える)
- 艱難は人を作り、安逸は悪魔を作る
(困難に打ち勝って立派な人が作られ、のん気に遊んでいると悪い人間になる)

もちろん、宗祖のお言葉もお目通し願いたい。

- 心の「ゆるみ（怠慢）」をいましめるために疫病を仏が与えました。
仏はただただ励ます心だけである。仏はただただ向上を願う心だけである。

1月の祈祷会に、愚僧（住職）の独断と偏見で示す「新年・今年の一文字」
令和2年の本年は「蘇」（そ・よみがえり）

紫蘇（しそ）とか屠蘇（とそ）に使われるのは以下の意味からである

紫蘇・・・強く何度でも生える

屠蘇・・・厄払い

また、蘇の解字としては、「つまったのどを息が通り、空息がとけて生き返ること」

蘇息（そそく）・・・安心する

などとも使用される。

他動的（外敵によるもの）とはいえ、自分自身の心に湧く、3つの「不」による詰まりを取り除きスッキリしたいものである。とはいえ、そう簡単なものでもない。状況が変わればともかく、先が分からない今、自分自身でその「不」を除くことは困難だ。

自分自身では・・・自分の力だけでは・・・そう。難題。

だからこそ「南無妙法蓮華經」がある。

宗祖日蓮大聖人曰く、**妙とは蘇生の義なり 蘇生とはよみがえる義なり**

お題目を唱え、その力を借りて心の「不」を取り除き、これを機に蘇りたい。それが出来る不思議なる力だからこそ、「妙」というのである。

自粛での自然終息や、特効薬等も待ち遠しいが、万民の心が新たに蘇ったとき、本当の終息と安穩が得られるというのは言い過ぎだろうか。

最後になるが、改めて各家ご祈念するのみである。 妙智寺 坂井是真 九拝

5月の和讃・生け花講習は未定ですので、
決まり次第ご連絡させていただきます。

4月の妙智寺 月例の回向（訪問型・来山型）は省略

4/1 上棟式祈祷	4/2 一周忌・三回忌法事	4/4 一周忌法事
4/5 三回忌法事	4/4 リフォーム祈祷	4/5 家祈祷
4/11 一周忌・墓開眼納骨	4/11 27回忌回向	4/12 13回忌法事
4/12 月施餓鬼(1周忌)	4/12 月施餓鬼(祥月)	4/12 月施餓鬼(祥月)
4/12 月施餓鬼(祥月2霊)	4/12 社員一同月施餓鬼	
4/12 月施餓鬼(祥月2霊)	4/23 50回忌法事	4/23 車祈祷
4/24 大黒尊天開眼・安産祈祷	4/26 車祈祷	

プライバシーの関係により名前は控えさせていただきます

5 月 行事予定



新型コロナウイルス拡大防止と各家皆さまの安全を考慮し、以下の法要は住職のみにて勤めますが、ご参拝は向拝口(本堂前)にてのお焼香までいただけます。尚、それぞれ回向と祈願は申し上げますので、いつも通り、お申し込みください。

※上記は4月下旬の状況による判断です。その都度、状況を見て判断しますので、お問い合わせや[ホームページ](#)をご確認ください。合掌



□ 5 月 1 日(金) 午後 2 時 月例水子供養会

□ 5 月 1 0 日(日) 午後 2 時

月施餓鬼・鬼子母神祈祷会

- ・ 登録の霊位を経木塔婆に書写し、施餓鬼供養いたします。
- ・ 祥月命日や年回忌・縁のある先祖に特別施餓鬼供養します。
- ・ 鬼子母神さまを開帳し、ご祈祷いたします。祈願を受け付けます。
- ・ 持ち歩き用 方除け守授与。
- ・ 各家守護神法楽。酒や塩等、持参下さい(守護神様に・家の水周り等に)
- ・ 各種 相談もお受けします。
- ・ 妙法水を持参ください。
- ・ ※4月から令和2年度の経木塔婆供養が始まっています。
- ・ 未申込の方はご確認ください

□ 日曜朝参り／月例 唱題行・法話会・・・毎週日曜日 午前 7 時

今月の縁日

5/9～20 ハせん(樹木伐採・枝打ちの禁止)

5/12 伊豆法難会(日蓮聖人、念仏の弾圧により伊豆に流される)